



愛知県議会議員

神谷まさひろ

皆様には健やかに新春をお迎えのことと存じます。昨年は大変お世話になりました。誠にありがとうございました。「日記で綴る県政報告Vol.36」をお届け致します。

今回は昨年の12月定例愛知県議会の内容のほかに、各種イベントや講演会、県外調査を切り口として県政の情報を伝え致します。皆様にはぜひご一読頂き、県政を少しでも身近に感じて頂けたら幸いです。



11.19 水 アジア・アジアパラ大会の参考に 東京2025デフリンピックを視察しました



アジア・アジアパラ大会推進特別委員会の県外調査で東京2025デフリンピックを視察しました。



国際ろう者スポーツ委員会が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際スポーツ大会です。第1回は、1924年にフランスのパリで開催されました。今開催されている東京2025デ

フリンピックは、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催です。

初めに渋谷区にあるデフリンピックスクエアを訪問しました。デフリンピック競技大会の期間中、大会の運営等を担う拠点です。この施設の機能と運営について説明を聞くと共に施設調査を行いました。

その後、江東区にある東京アクアティクスセンターを訪問しました。東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて整備された施設で、来年のアジア競技大会の競泳・飛び込みの競技会場にも選定されています。デフリンピック競技大会における競技会場の運営方法等について説明を受けた後、館内の設備等の調査を行うと共に実際の競技を観戦しました。

12.1 月 愛知県議会が開会 知事による議案の提案説明の中から



日から12月18日(木)まで18日間の会期で12月定例愛知県議会が開会しました。

技大会にも出場するのではないかと楽しみにしています。

こうした刈谷市ゆかりの選手が国際大会で大いに活躍されるよう、これからもしっかりと応援して行きたいと思います。



その中で、世界水泳選手権シンガポール2025大会のアーティスティックスイミング・チームフリーで2位に輝いた藤井萌夏選手の名前が出てきました。刈谷市若松町生まれで住吉小学校、刈谷南中学校出身、来年の第20回アジア競

12.3 水 開業から1年 STATION Aiのこれまでの成果と課題

12

月定例愛知県議会、今日は自民党・あいち民主共に政調会長が代表質問に登壇しました。開業から1年が経過したSTATION Aiについて、これまでの成果と課題、今後どのような方向で展開していくのかといった質問がありました。大村知事の答弁を紹介します…



■スタートアップ約610社、パートナー企業約350社、計約960社が集積し、年間1,300件を超えるピッチや連携イベントが行われている

- 1年間でスタートアップ158社が604億円の資金調達を実現した
- 世界的なイノベーション創出拠点を目指し、さらに求心力を高めていくためには、STATION Ai独自の支援事業やコミュニティの更なる活用促進、マッチング成功率の向上や連携・協業実現に向けた専門的支援の高度化に加え、ダイバーシティの観点からは女性起業家の創出、海外スタートアップとの連携促進など、多様性を高めていくことが必要となる
- 中長期的には株式公開やM&Aといった、いわゆるイグジットや、パートナー企業等との協業モデルを数多く実現し、持続的なイノベーション創出につなげていくことが重要

12.4 木 AIによる信号機制御システムの実証実験が行われています

愛

知県議会は一般質問が行われ自民党5名、あいち民主2名の議員が登壇しました。

- 質問の中で興味深い質問がありました。「AI制御信号機による次世代型交通管理システムの導入について」というものでした。県警本部長の答弁を紹介します…
- 2021年度にAIを活用した信号制御の実証実験を開始⇒現在は岡崎市内の3か所の交差点において実証実験を行っている
 - 信号交差点に設置した1台のカメラにより、全方向の通行車両台数をAIが分析して、その結果に応じ青信号時間を調整して渋滞の緩和を図るもの
 - 右折車線の渋滞が課題となっている信号交差点におい

て、AIを活用した信号制御を実施した結果、右折待ちの渋滞が改善する効果が一定程度見られた

- 本年度から新たに開始する予定の名古屋市昭和区及び瑞穂区内の信号交差点においては、分析の対象を車両のみならず歩行者も対象として、きめ細かい信号制御を行う予定
- 今後は、実証実験により得られた結果に基づきAIの解析制度を向上させ、AI制御信号の本格導入に向けた検討を進める



答弁する県警本部長

12.5 金 「高校生のタブレット購入補助」「使用済み食用油で飛行機が飛ぶ」

一

般質問、本日も自民党5名、あいち民主2名の議員が登壇しました。2項目について紹介します…

①高校生等の一人一台端末の購入補助について



答弁する教育長

- 高校生等が授業で使用するタブレットについて来年4月の入学生から、個人所有の端末を学校の授業等で使用するBYOD(私的デバイスを持ち込む方式)へ移行することになっている
- 新たに購入する際に各御家庭の経済的負担の軽減のために購入

する際の補助を予定している

- 住民税非課税世帯などの低所得世帯や、特別支援学校高等部に入学する生徒のいる世帯には購入費の全額を補助
- ひとり親世帯のうち児童扶養手当を受給している世帯や、扶養している子供が3人以上いる多子世帯のうち年収約600万円を下回る世帯に対しては、購入費の4分の3を補助
- 県で共同購入の仕組みを整え、購入を取りまとめて価格を抑えるなど、保護者負担の軽減に努める
- 購入時に端末代金の全額を支払うことが困難な場合も想定されるので、補助額を差し引いた金額で共同購入できるようにする

②使用済み食用油の航空燃料・SAFへの活用について



答弁する経済産業局長

- 2023年度においてSAFの原料となる廃食油の回収・資源化を実施している県内自治体は32市町村となっている
- 廃食油の安定的・継続的な確保に向けて、さらに回収を促進し、利用へつなげていくことが課題となっている
- このため本年8月、廃食油の回収

からSAFの製造、利用までの一貫した取組をこの地域で実現することを目指して、スーパー、飲食店、航空事業者などの民間企業と県内市町を構成員とする「あいち地産地消SAFサプライチェーン推進協議会」を設立した

- この協議会では、今年度中に市町村や民間企業に向け、回収を促進する具体的な手法をまとめたガイドブックを作成・情報共有しその普及に努める
- 協議会会員である株式会社アオキスーパーと日本航空株式会社が連携して店頭での廃食油回収に取り組んでおり、今月7日からは県内の50店舗すべてにおいて回収が始まる予定

12.7 木 インクルーシブな社会にするためのポイントは…

愛

知県重度障害者団体連絡協議会主催による講演会『インクルーシブ教育がひらく未来～南桜塚小学校の実践から～』に出席しました。

基調講演の講師は大阪府豊中市立南桜塚小学校元校長の橋本直樹氏(写真)、基調講演の後は障害当事者で自立生活センタースタッフを交えてのシンポジウムでした。非常にためになると共に、考えさせられる講演内容でしたが、自分としては今回の教えを次のようにまと

めています…

「インクルーシブな社会にするためには、制度がいくら整っていてもダメで、根本に人権意識が根付いているかどうかがポイント。子どもの頃から人権意識を根付かせるには、統合保育や統合教育により、健常児と障害児とが一緒に育っていくことが大切。人権意識とは教えられるものではなく、日々の生活の中で経験し身について行くもの」

尚、主催をしている愛重連は、愛知県の県立高校にエレベーターの設置を要望しており、一般質問においても取り上げられています。

12.12 金 未来を担う子どもたちが、ロボットを「見て」「触って」「体験する」イベント

A

ichi Sky Expoで今日から開催されている国際的なロボットの複合イベント『World Robot Summit 2025 AICHI』(WRS)とそのサイドイベントである子供向けの体験イベント『あいちロボフェス』に伺いました。

会場には、各地の工科高校の生徒さんがクラス単位での見学ツアーとして来ておられ、ちょうど刈谷工科高校の皆さんと一緒にになりました。また、子供向けの体験ブースには小学生と思しき子どもたちの姿が沢山あり、車いすに乗った特別支援学校の生徒さんの姿もありました。

明日からはロボット関係の仕事に特化したキッザニアも行われることになっており、未来を担う子どもたちが、ロボットを「見て」「触って」「体験する」ことにより、ロボットへの興味や関心が高まり、将来その分野で活躍する人財として育ってくれることを期待しています。



12.18 木 愛知県議会が閉会 12月議会での補正額としては過去最高です

12

月定例愛知県議会も本日が最終日です。県議会の開会前には当局・議員全ての人が起立をして開会式が、最終日には閉会式が行われます。写真はその時の様子です。

16日に国の総合経済対策を盛り込んだ補正予算案が国会を通過したことを受け、物価高騰の影響を受ける事業者等を支援するため、一般会計1,288億7,429万余円の増額補正予算案が提出されました。そして審査のため常任委員

会が開かれ、私は「燃油価格高騰の影響を受ける貨物自動車運送事業への支援」「特別高圧電力を受電している中小企業者等への支援」について質問しました。

今回の物価高対策(重点支援地方交付金)関連事業では、光熱費、食材費、燃料費、飼料代、LPガス料金等への支援を行います。特に、米の価格が急騰している状況を踏まえ、食材費への支援を手厚く行うとともに、厳しい経営状況にある医療機関等を手厚く支援するため、診療経費等を補助対象に加えています。

本日追加された増額補正分を含めると、12月補正予算の全体の規模は、1,484億1,453万余円となり、12月議会での補正額としては過去最高となります。



12.26 金 全国初となる県と市町が連携した上下水道の一本化

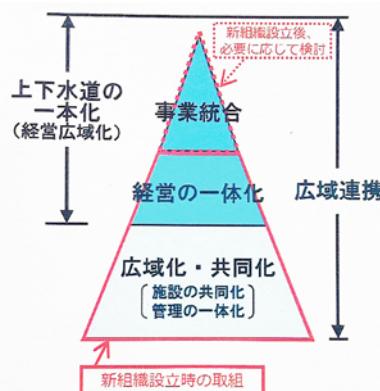


作川流域上下水道広域連携協議会の設立総会が開かれました。

現在、県や市町村等が行っている上下水道事業の経営環境は、人口減少に起因する料金収入の減少や、施設の老朽化、地震対策に伴う支出の増加、熟練職員の退職など人材不足によるサービス水準の低下などにより厳しさが増していくことが見込まれています。

こうした状況を踏まえて、持続可能な上下水道サービスを提供していくため、矢作川流域を中心とした西三河地域において、全国初となる県と市町が連携した上下水道の一本化に向けた検討を2024年8月に準備会を設立して進めてきました。そしてこの度、具体的な検討及び準備を円滑に行うために協議会を設立することになったのです。

ただ、広域連携することにより「これまで水道料金が他の市町に比べて安かったところは高い市町の料金に合わせて値上げされるのではないか」といった不安の声をよく耳にします。右の表にあるように、刈谷市は令和8年4月から水道料金を引き上げることになっていますが、そうなったとしても10自治体の中では3番目に安いですから、広域連携することによって他市町に合わせるかたちで引き上げられるとしたら市民の理解が得難いのではないでしょうか。



そこで当初は、料金統合を要しない形態で

ある「経営の一体化」を目指すとしています。

構成自治体は愛知県・岡崎市・碧南市・刈谷市・豊田市・安城市・西尾市・知立市・高浜市・みよし市・幸田町です。

また、次の展開として豊川流域を中心とした東三河地域においても同様の一本化に向けて準備会を設けて行きます。

水道料金の近隣市町比較表

令和8年4月時点			
順位	団体名	金額(円)	直近改定時期
1	幸田町	2,552	H9.7
2	豊田市	3,030	R6.4
3	刈谷市	3,069	R8.4
4	安城市	3,135	R8.4
5	西尾市	3,190	R7.10
5	碧南市	3,190	S58.2
7	知立市	3,300	H9.6
8	高浜市	3,394	H14.4
9	岡崎市	3,491	R7.10
10	みよし市	4,455	R7.6

20mm口径・1か月使用水量20m³・税込
一般家庭を想定した比較

